

## 天正度方広寺大仏殿の造営について

○正会員 麓 和善 ＊

同 渡辺勝彦 料

同 内藤 昌 料

序

京都東山の南六波羅に建立された方広寺大仏殿は、天正14年(1586)に着手され、文禄2年(1593)9月24日に上棟したいわゆる天正度のもの(注1)と、それが慶長7年(1602)に焼失したため、慶長14年(1609)再興に着手した慶長度のもの(注2)がある。後者は寛政10年(1798)に焼失するまでの約200年間にわたって存続したため、史料も多く比較的詳細に判明しているが(注3)、前者は存続期間が短かっただけに、その実態には不明な点が多い(注4)。

本稿では、天正度方広寺大仏殿の造営に関する文書『大仏殿御造営目録上・下』(天理図書館蔵)を紹介するとともに、若干の考察を加えたい。

## 1、『大仏殿御造営目録上・下』の記載内容

本史料は天正19年(1591)から文禄2年(1593)までの3年間にわたる、方広寺大仏殿造営に係る費用の収支決算報告書で、上・下2冊から成り、輿山上人(木食上人応其)から民部卿法印(前田玄以)・増田右衛門尉(長盛)・長束大蔵大輔(正家)・木下大膳大夫(吉隆)に宛て書かれたものである。

まず上巻は文禄2年10月14日付で、その前段はいわば収入の部にあたり、天正19・20年に、受取った資金

表-1 天正度方広寺大仏殿造営工事費 収入の部  
『大仏殿御造営目録上』(天理図書館蔵)による。単位:石

	天正19年 (1592)	天正20年 (1593)	合 計
小出播磨寺	786	6000	6786
御牧勤兵衛	300	--	300
石川久五郎	500	--	500
長束大蔵大輔	1000	--	1000
増田右衛門尉	1800	3000	4800
朽木河内守	500	--	500
矢野下野守	500	6000	6500
黒川主守頭	500	--	500
大野佐渡守	500	--	500
片桐主膳	500	--	500
一柳右衛門	295.835	--	295.835
寺沢越中守	5000	3000	8000
時田中模守	1000	--	1000
師法印	5000	3000	8000
伊藤加賀守	1000	3000	4000
小山新介	2150	2150	4300
松浦金守	--	3000	3000
観音寺	--	3000	3000
	--	1575	1575
合 計	21331.834 21331.835	33725	55056.834 55056.835

注、〔 〕内は筆者の計算による訂正值

(代米)の内訳が記されている。そして、その後半はいわば支出の部にあたり、天正19年、20年に支払われた諸職人工賃・材料購入費、木食上人が召使った者の労賃の内訳が、年別に詳しく記され、最後に差引残った額を翌文禄2年に繰り越す旨が書かれて終る。

下巻は文禄2年12月28日付で、文禄2年に支払われた諸職人工賃・木材運搬費・材料購入費、木食上人が召使った者の労賃の内訳が、上巻同様に詳しく記され、前年からの繰り越しとの差引により、過剰支出となった旨が書かれて終る。以上の内容を収入・支出別にまとめると、表1、2のとおりになる。

## 2、諸職人工賃

諸職人に支払われた日別工賃は飯米と作料から成り(ただし、文禄2年には棟梁にのみ「日別のたり米」が支給されている)、飯米は各職一律に1升5合であるが、作料は職種・格付によって異なっている。すなわち、番匠は棟梁、肝煎、平大工上、平大工下の順にそれぞれ8升5合、6升5合、4升5合、2升5合で、柚(公事柚には作料なし)、材木屋どもの屋根葺は3升5合、石工は8升5合(飯米・作料合わせて1斗と記されているが、飯米は各職1升5合であるので作料は8升5合と考えられる)となっている。

また鍛冶は4升2合5勺5才(天正19年)、3升5合4勺(同20年)、2升9合2勺(文禄2年、「たかひきならして也」とある)と年によって異なっているが、これは平均値で、番匠と同様に格付によって作料が異なり、平均値の高い年ほど手間代の高い鍛冶が多く働いていたと考えられる。

以上は、その終わりに「いずれも小日記あり」と書かれており、日ごとに出面を正確に記録し、それに基づいて工賃を支払う直営制であったことが判る。なお、建築職人以外では、木材運搬に従事した人足・水夫の飯米が1升づつ、釜屋の飯米作料が7升、木食上人によって召使われた奉行手伝い・小者の飯米がそれぞれ

7合5勺、7合5勺、5合づつとなっている。また、奉行・手伝・小者には作料の代わりに「御給」が年間それぞれ500升、400升、200升づつ与えられている。

3、材料購入費

材料購入費は少なく、毎年全体の約1割程度で、しかも消耗資材である「かちすみ」(釘・鋸等の建築金物作成にあたり鍛冶が使用した炭と考えられる)がその約8割を占め、他は屋根材、「ひうちぼうちやく」、および竹、縄等雑資材である。ここに木材・金属資材等の主要材料費が計上されていないのは、秀吉の命によって徴収されていたため、特に金属資材については天正16年7月6日に発布された刀狩令の内容どおり、没収した刀・脇差等が用いられていたと考えられる。なお、以上の材料購入費については、天正19年、20年には「いずれも小日記あり」となっているのに対し、文禄2年の屋根材・火打宝鐸については、それぞれ支払を受けた者の住所・氏名を挙げ、「請取あり」と記している。前者が直営制であるのに対し、後者は請負制であると考えられる。

4、木材運搬費

木材運搬費については、搬入経路ごとに運送手段・部

材名称・数量等の説明があり、その後には支払われた者の住所・氏名を挙げ、「請取あり」と記している。これも請負制になっていたのであろう。

結

本史料により、天正度方広寺大仏殿の造営における、建築諸職人に支払われた「飯米」・「作料」の程度をはじめ、購入材料の種類および木材の部分名称・寸法・運搬経路と方法等が、断片的ではあるが、判明した。その経営方法は、職人工賃、雑資材購入等は直営制がとられているものの、製品の購入、木材運搬等は請負制で行なわれており、『本阿弥光悦行状記』に見える入札制度への転換期の状況がよく判る。この点を近世造営史上の先駆的特色として、特に指摘しておきたい。なお、本史料により判明した木材の部分名称・寸法・数量等を基に大仏殿の復原的考察も可能であるが、別稿に譲りたい。また、本研究にあたり、掛布勇氏の協力を得たことを付記する。

注

1) 天正14年4月秀吉、造営のため用材を諸国に賦課(兼見卿記ほか)、同16年5月15日居礎(『言経卿記』ほか)、同19年5月20日立柱(『兼見卿記』ほか)、文禄2年9月24日上棟(『多聞院日記』ほか)、同4年9月25日大仏供養(『兼見卿記』ほか)。

2) 慶長14年1月家康、秀頼に勤めて再建に着手させる(『義演准后日記』ほか)同15年6月12日新始(『御湯殿上日記』ほか)、同19年4月16日鐘を鋳る(『義演准后日記』ほか)。

3) 関野貞「方廣寺大仏殿」『日本建築史図集』彰国社 昭和24年、天沼俊一「方廣寺」『日本建築史要』飛鳥園 昭和3年。

4) 天正度方広寺大仏殿に関する史料としては『匠明・室記集』(慶長13年東京大学蔵)『愚子見記 四』(天和2年頃、法隆寺蔵、西岡家保管)、『豊国祭屏風』(豊国神社蔵)があり、復原的考察が試みられている。(内藤昌・中村利則「聚楽第と大仏殿」『近世風俗図譜 9 祭礼』小学館 昭和57年)。

表-2 天正度方広寺大仏殿造営工事費 支出の部(天正19年~文禄2年) 『大仏殿造営目録 上・下』(天理図書館蔵)による。

工 事 費	天正19年(2月~12月)			天正20年(1月~12月)			文禄2年(1月~12月)			計	備 考
	1864168.7 [1864168.75]	1819959.5 [1820096.05]	1850589 [1850569.05]	5534697.2 [5534833.85]							
諸職人工賃	1343721.25	1223586.75	917721.25	3485029.25							
・番 匠	919122.2 [919122.25]	842310.5	585002	2346434.7 [2346434.75]							
棟 梁 肝 煎 平大工 上・下	51600 290860 576662.25	44165 255088 543057.5	73480 183632 327890	169245 729580 1447609.75	飯米1.5 升/人 飯米1.5 升/人 飯米1.5 升/人	作料8.5 升/人 作料8.5 升/人 作料(半) 3.5 升/人					
・ 軸	183552.5	182751.25	213051.25	579355							
軸 公事軸	183552.5	176882.5 5868.75	208577.5 4473.75	569012.5 10342.5	飯米1.5 升/人 飯米1.5 升/人	作料3.5 升/人 のみ					
・ 鍛 冶	204174	197860	118493	520527	飯米1.5 升/人	作料(天正19) 4.255 升/人 (文禄2) 3.54 升/人 2.92 升/人					
・ 柱口石切	33810	-	-	33810	飯米・作料10升/人						
・ 材木屋どもの屋根葺	3062.5	665	1175	4902.5	飯米1.5 升/人	作料3.5 升/人					
材料購入費	147947.5	224009.3	204604.3	576561.1							
(鍛冶炭) かちすみ	141381.5	208101.3	91694	441176.8							
・ 屋 根 材	3932	3026	100669.3	107627.3							
葺 板 下	3932	3026	9815.8 22664 68189.5	16773.8 22664 68189.5	のね板・ししく板・ささ板 他						
・ 竹	2265	520	590	3375							
・ 縄	369	112	650	1131	材木屋の繕い、足代様に使用						
・ 縄	-	12250	-	12250							
(火打宝鐸) ひうちぼうちやく (近江樽) あみくわ	-	-	9797.5	9797.5	唐金 堅炭 手間(飯米・作料7升/人)						
・ 手 伝	201000	201000	500000	1245000	材木屋の繕いを使用						
・ 小 者	133000	133000	228243.5	228243.5	船・運・馬・人力・川流しによる 人足(かこ水夫)飯米1升/人						
木材運搬費	-	-	228243.5	228243.5							
木食召使者労費	372500	372500	500000	1245000							
・ 奉 行	38500	38500			飯米0.75升/人 御給 年間500 升/人						
・ 手 伝	201000	201000			飯米0.75升/人 御給 年間400 升/人						
・ 小 者	133000	133000			飯米0.5 升/人 御給 年間200 升/人						

注、( )内は筆者の計算による訂正値